

起こり得る災害 対応確認

八戸3・11防災フォーラム



災害への対応や課題について考えた「3・11防災フォーラム」＝八戸市

八戸工業大インフラ・防災技術社会システム研究センターと八戸市は、市津波防災センターで「3・11防災フォーラム」を開いた。市民ら約100人が参加。昨年9月に発生した北海道胆振東部地震の被害状況や課題について理解を深めながら、今後起こり得る災害への対応について考えた。室蘭工業大の木幡行宏教授が「地盤災害の概要」のテーマで基調講演。同地震で震度7を観測した厚真町などでは、地滑りが多数発生しており、木幡氏は「火山灰によって形成された地盤が厚くなっている地点は

ど斜面崩壊が大きかった」と指摘した。

「地形から約9千年にわたりこの地域で大きな地震が起きていなかったとも考えられ、同様の被害が今後全国各地でも起こる可能性がある」と注意を呼び掛けた。

また、八戸工大と八戸学院大の教員が防災教育の在り方やインフラ対策について研究成果を報告した他、市の担当者が自治体間の災害時協定や被災地への職員派遣について紹介。会場の参加者たちは今後の防災につなげようと真剣に聞き入っていた。

(小嶋嘉文)